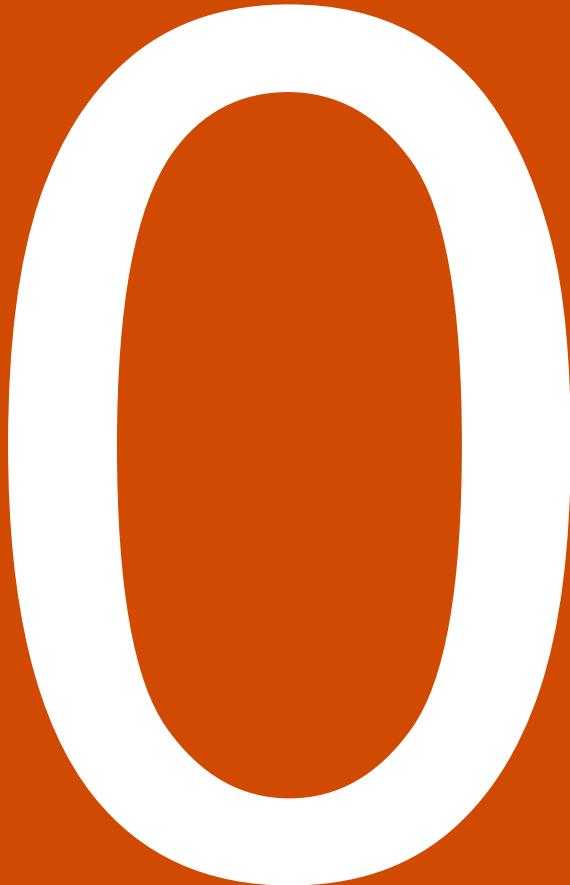


【資料3】

AI事業者ガイドラインに関する事業者アンケートの結果 概要

2026年2月16日

総務省 国際戦略局 国際戦略課 AI政策推進室



はじめに(調査の全体像)

調査設計

✓ 本調査では、国内の事業者における(1)AI事業者ガイドラインの周知浸透に関する推進状況、および(2)AIガバナンスに関する取組状況や課題等の大きく二点についての実態把握を目的に、アンケート調査を実施した。

調査目的	<p>(1)AI事業者ガイドラインの周知浸透に関する推進状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none">➤ ガイドラインの認知度・活用状況・評価等（主にセクション3、4の設問が該当）➤ <u>効果的な周知浸透手法の検討</u>に繋げる <p>(2)AIガバナンスに関する取組現状や課題等の把握</p> <ul style="list-style-type: none">➤ AIの活用状況・AIリスクの分析状況・AIガバナンスの取組状況や課題要望等（主にセクション2、4の設問が該当）➤ <u>先進的な取組事例</u>（<u>インタビューでも深掘り</u>）の横展開に繋げる
調査手法	Webアンケート（Microsoft Forms）
調査期間	2025年10月15日(水)～11月7日(金)
調査対象	日本ディープラーニング協会（JDLA）・情報サービス産業協会（JISA）・企業情報化協会（IT協会）・AIガバナンス協会（AIGA）・日本ITU協会の所属企業

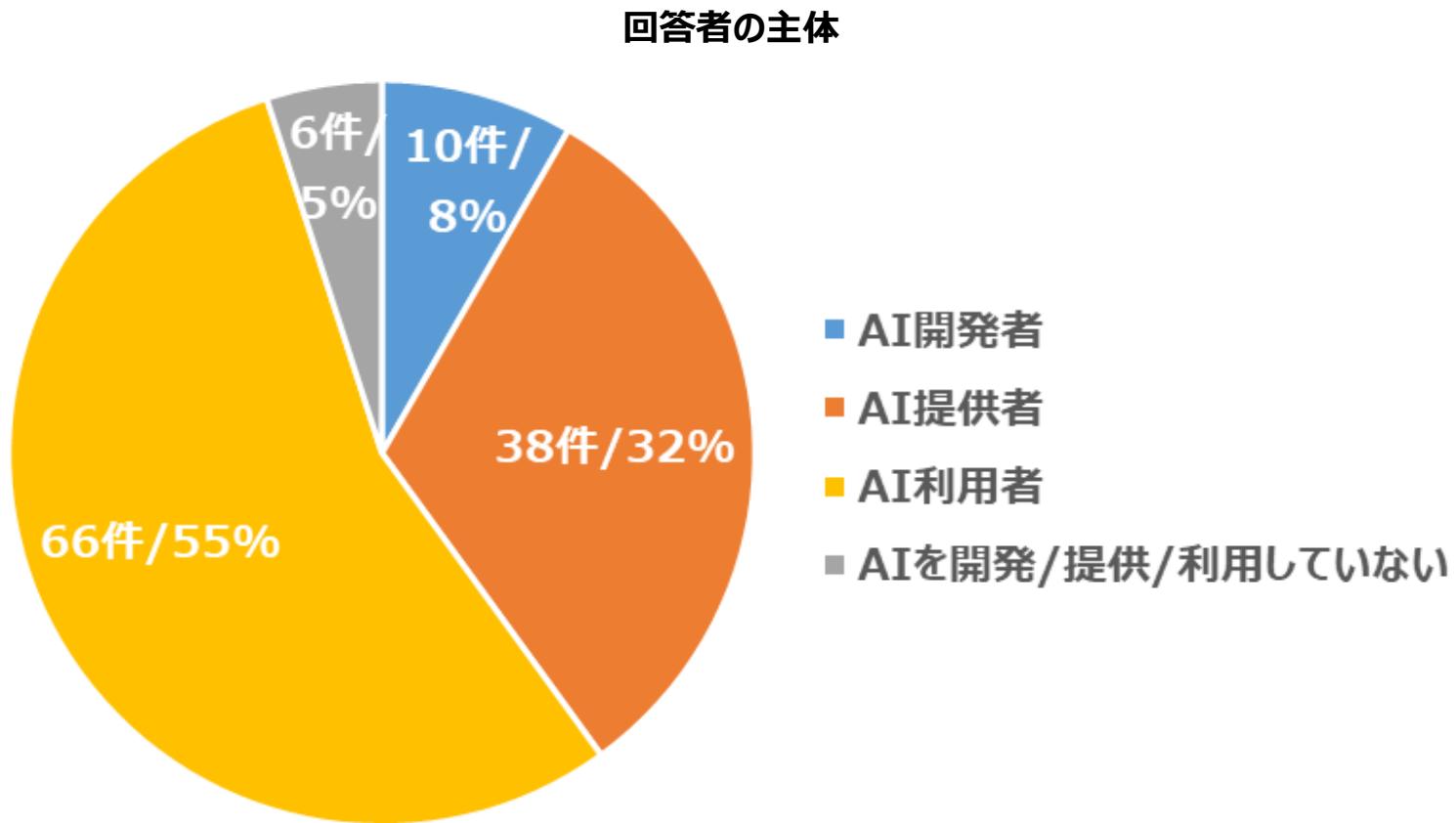
設問一覧

: 本資料で結果をご報告する設問

章立て	設問内容	設問番号	対応する 調査目的
はじめに (回答者属性)	ご所属部署は「AI開発者」「AI提供者」「AI利用者」のいずれに分類されると考えられますか。	1.4	-
	先進的なAI（AIエージェント・マルチモーダルな生成AI・フィジカルAI・AGI）をご所属部署内で開発/提供/利用していますか。	1.6.1	-
第1章 AI事業者ガイドラインの 認知度・活用度	AI事業者ガイドラインは組織としてどの程度認知・浸透していますか。	3.1.1	(1)
	AI事業者ガイドラインの改訂版（第1.1版）が今年の3月に公表されたことを組織として認知していますか。	3.1.2	(1)
	ご所属部署においてAIガバナンスに取組む上で、AI事業者ガイドライン等を業務内で活用したことがありますか。	3.2.1	(1)
	ご所属部署においてAI事業者ガイドラインを業務内でどのように活用したかを以下のうちよりお選びください。	3.2.2	(1)
	上記の設問でお選びいただいた項目について、AI事業者ガイドラインの具体的な利用シーン（頻度・目的・参照している箇所等）をご記載ください。	3.2.3	(1)
	AI事業者ガイドラインを活用することで、どのようなメリットを感じましたか	3.2.4	(1)
	AI事業者ガイドラインの内容で特に活用している（もしくは効果があった）章をお選びください。	3.2.5	(1)
	AI事業者ガイドラインを業務内で活用する上で感じた課題があればご記載ください。	3.3	(1)
	ご所属部署内でのAIの開発/提供/利用において、特に重視しているガバナンスの観点を以下のうちよりお選びください。	2.1	(2)
	上記の設問で1つ目～5つ目の観点とそれに係るリスクに対して、どのような対応策を実施されているか、事業活動や業務内容に照らして具体的にご記載ください。	2.2.1～ 2.2.5	(2)
第3章 その他のAIガバナンスの 取組状況	各省庁や業界団体等で発信されている、業界別のAIガバナンスや利活用に関する方針・ガイドラインは組織としてどの程度認知・浸透していますか。	4.1.1	(1)
	業界別ガイドライン等について、組織としてご存じのものを以下のうちよりお選びください。	4.1.2	(1)
	国際間で取り決められたAIガバナンスに向けたガイドライン等について、組織としてご存じのものを以下のうちよりお選びください。	4.2	(1)
	AIガバナンスに関して、これまでの設問でまだ記載いただいていない取組があればご記載ください。	4.3	(2)
	AIガバナンスの構築に向けて社内でハードルとなっている点を以下のうちよりお選びください。	4.4.1	(2)
	上記の設問4.4.1でお選びいただいたハードルの具体的な内容、およびハードルを解消するための取組・取組を進める上で感じた課題をご記載ください。	4.4.2	(2)

回答者の主体

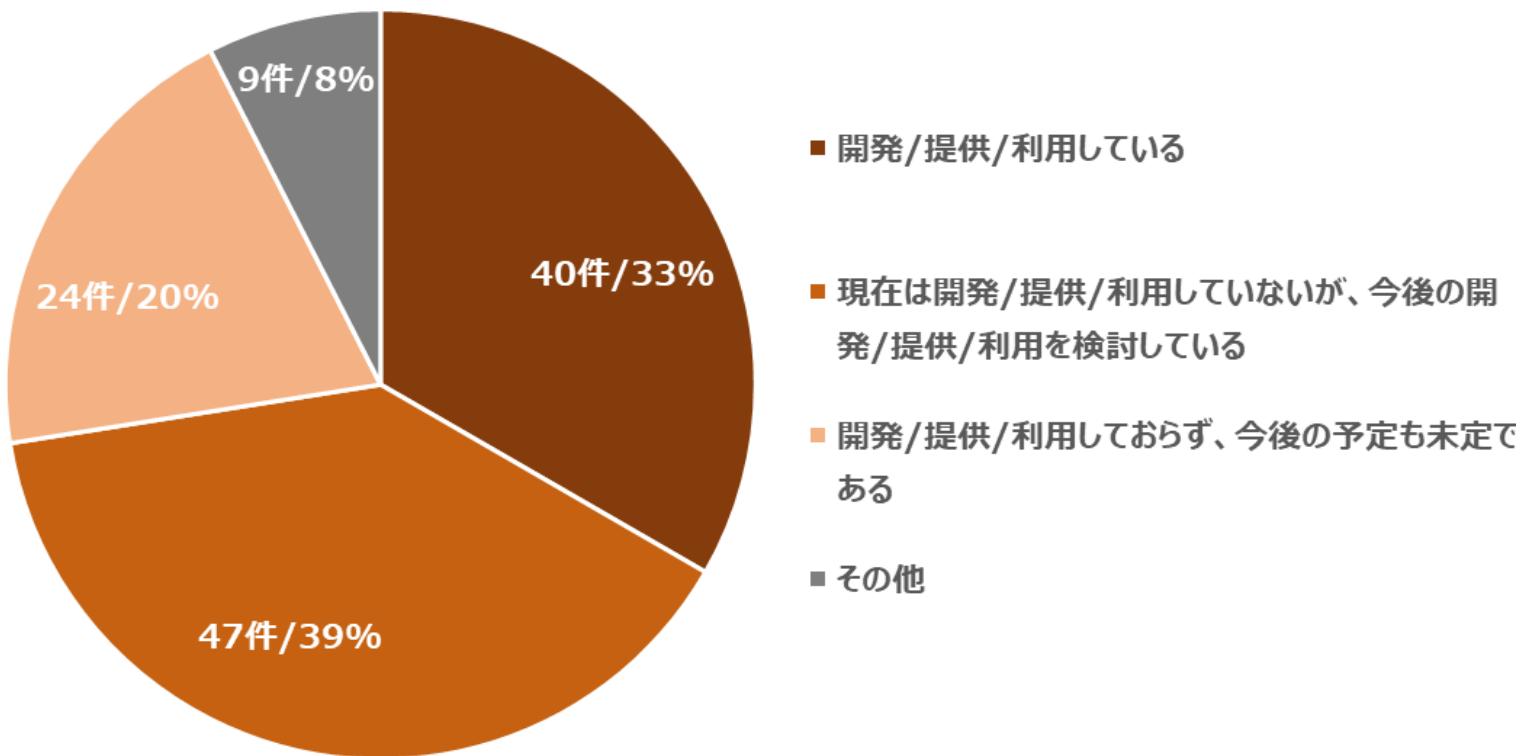
- ✓ 本アンケート調査は全体で**120件**の回答（数社より複数回答があったため回答企業数としては112社）が得られた。
- ✓ 主体別にはAI開発者：10件、AI提供者：38件、AI利用者：66件であった。



参考：先進的なAIの開発/提供/利用状況

- ✓ 先進的なAI（AIIージェント・マルチモーダルな生成AI・フィジカルAI・AGI）を「開発/提供/利用している」という回答は全体の**33%**であった。
- ✓ 「現在は開発/提供/利用していないが、今後の開発/提供/利用を検討している」という回答（全体の**39%**）とあわせると全体の7割を超える企業が一定多く見られた。

所属部署内における先進的なAI※の開発/提供/利用状況



※ AIIージェント・マルチモーダルな生成AI・フィジカルAI・AGIを指す

1

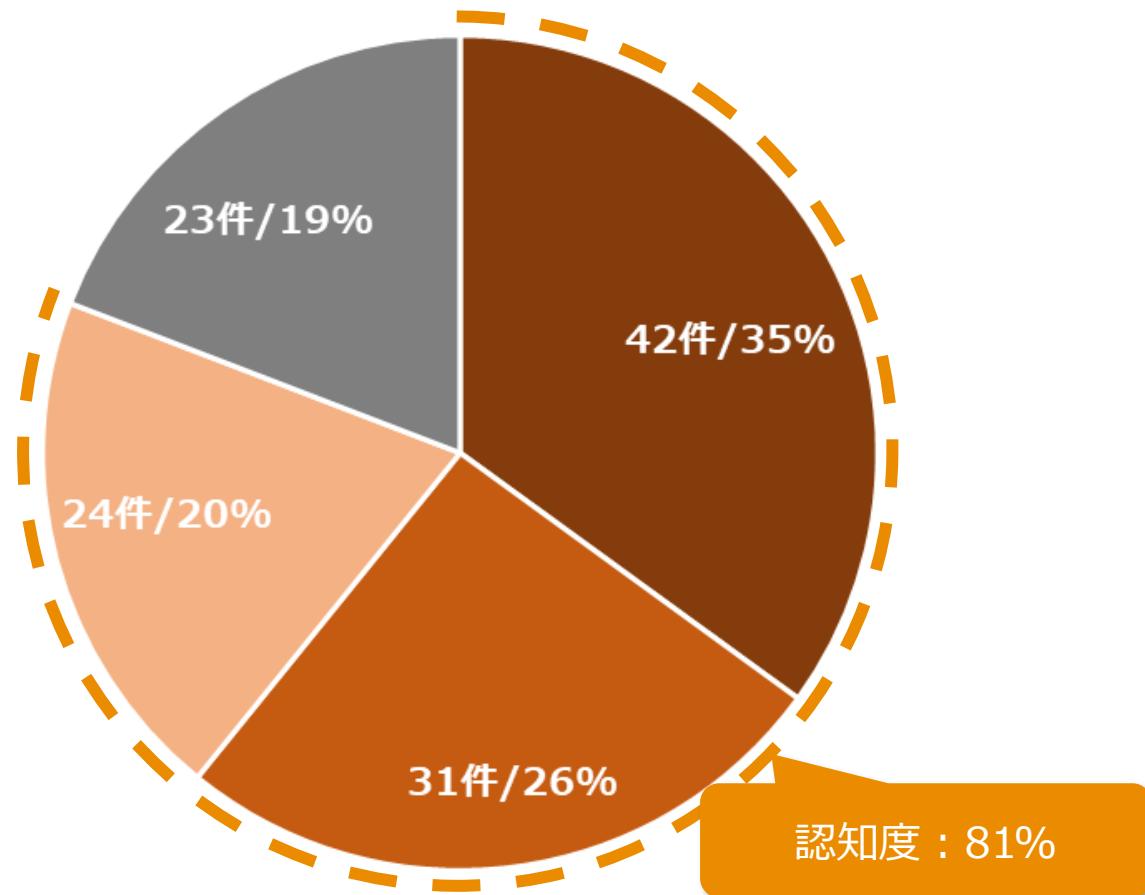
AI事業者ガイドラインの認知度・活用度

AI事業者ガイドラインの認知・浸透度

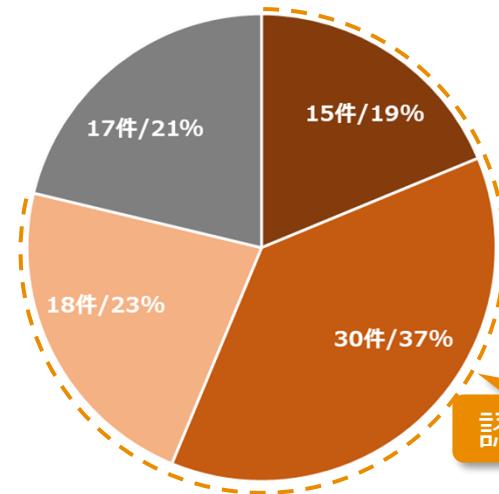
- ✓ 回答者の部署におけるAI事業者ガイドラインの認知度は**81%**であり、昨年度からほぼ変わらず高い水準
- ✓ うち「全社的な共有や活用も行っている」の回答は全体の35%で、昨年度から拡大

AI事業者ガイドラインの組織としての程度認知・浸透状況

今年度結果



(参考) 昨年度結果



認知度 : 79%

凡例

- 所属部署で認知した上で、全社的な共有や活用も行っている
- 所属部署では認知しており、現時点では全社的な共有や活用に向けて検討中
- 所属部署では認知しているが、社内共有や活用に向けた検討は行われていない
- 全社として、あるいは所属部署でも、認知していない

実施概要

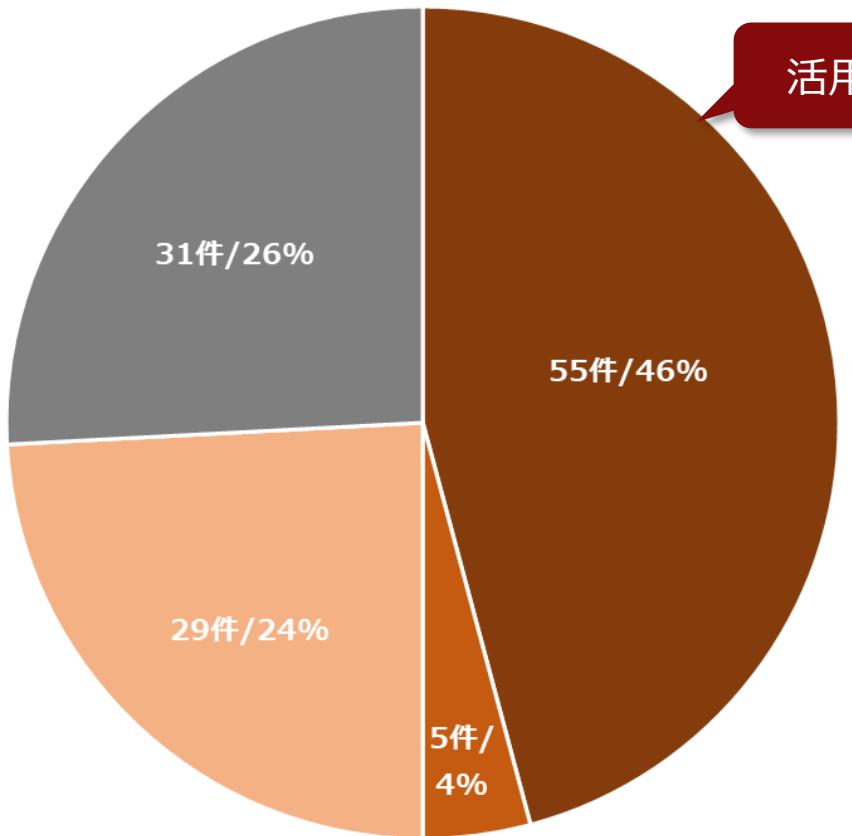
実施期間 : 2024年10月2日(水)
～10月18日(金)
対象 : JDLA・JISA・IT協会
所属企業
回答件数 : 80件

AI事業者ガイドラインの活用度

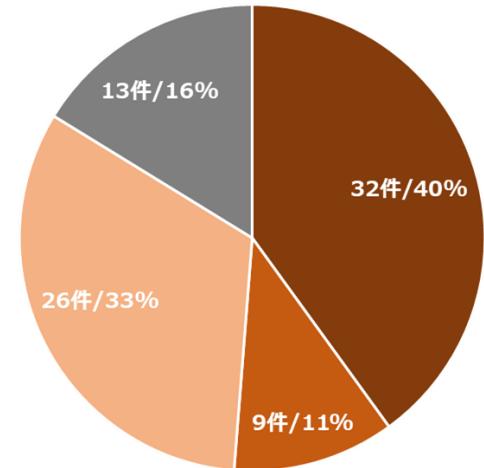
- ✓ 回答者の部署においてAIガバナンスに取り組む際のAI事業者ガイドラインの活用度は**46%**であり、**昨年度から増加した**。

AI事業者ガイドラインの組織としての程度認知・浸透状況

今年度結果



(参考) 昨年度結果



実施概要は前ページ参照

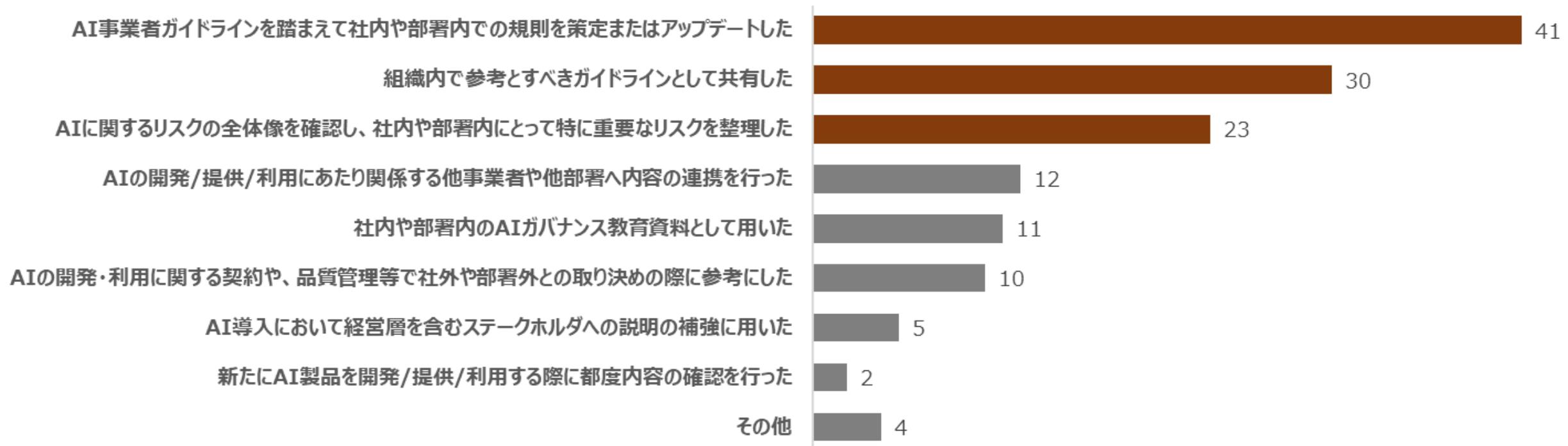
凡例

- AI事業者ガイドラインを活用したことがある
- AI事業者ガイドラインを活用したことはないが、それ以外のいずれかは活用したことがある
- いずれも活用したことがないが、部署として今後活用する予定
- いずれも活用したことがなく、部署として今後の活用も未定

AI事業者ガイドラインの用途

- ✓ 「AI事業者ガイドラインを踏まえて社内や部署内での規則を策定またはアップデートした」「組織内で参考とすべきガイドラインとして共有した」「AIに関するリスクの全体像を確認し、社内や部署内にとって特に重要なリスクを整理した」という**社内でのルールづくりやリスク分析に関する用途**の回答が多い傾向にあった。

AI事業者ガイドラインの用途



AI事業者ガイドラインの利用シーン

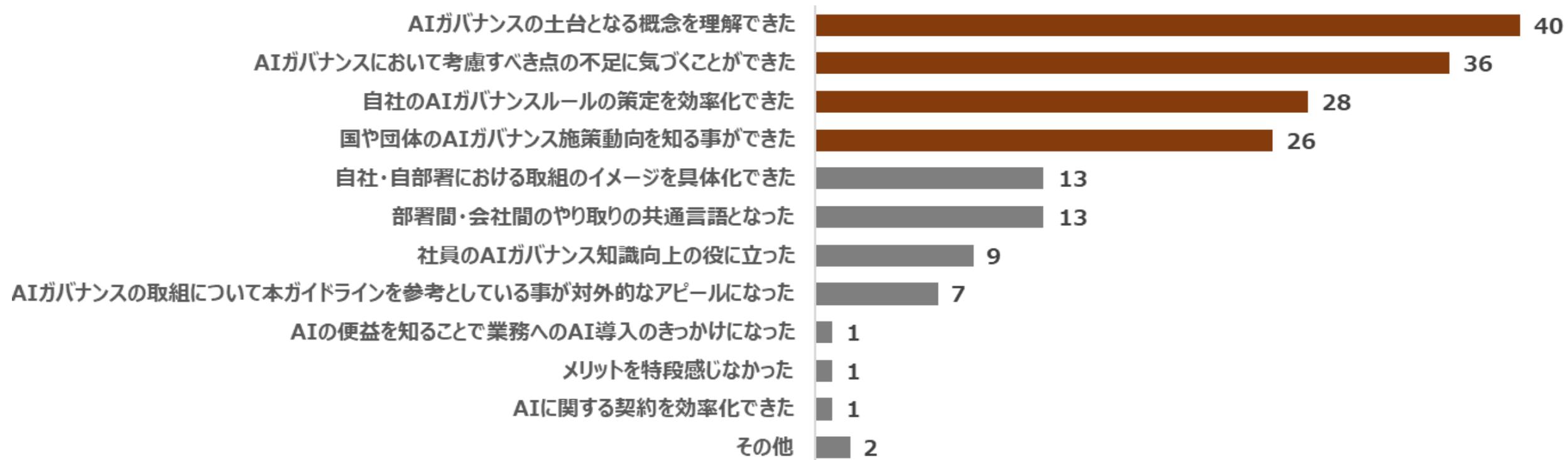
✓ 事業者からの回答で得たAI事業者ガイドラインの利用シーンの一部を抜粋

用途	AI事業者ガイドライン利用シーン（一部抜粋）
AI事業者ガイドラインを踏まえて社内や部署内での規則を策定またはアップデートした	<ul style="list-style-type: none">情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）のリスクアセスメントの評価項目に組み込んだ。自社のAIポリシーを策定した際に、AI事業者ガイドラインを参照した。社内におけるAI開発ガイドライン作成の参考資料として利用した。ガイドラインが改訂されるたびに、社内チェックリストやAIガバナンス体制を見直し、最新の規制や業界標準に適合するよう継続的に改善活動に取り組んでいる。加えて、外部機関との情報交換や業界動向のモニタリングにおいては本ガイドラインが教科書的な共通言語となり、内容の解釈や適用に関する議論を深めることで知見を補強し、社内ルールに反映した。
組織内で参考とすべきガイドラインとして共有した	<ul style="list-style-type: none">部内で四半期ごとに勉強会を実施し、ガイドラインの一部を部員に共有している。各開発プロジェクト発足時に読み合わせを実施社内研修資料や説明資料の作成時にもガイドラインを参照し、社員がAI利用に伴うリスクや対応策を理解できるようにしてきた。
AIに関するリスクの全体像を確認し、社内や部署内にとって特に重要なリスクを整理した	<ul style="list-style-type: none">AI事業者ガイドラインが更新されたタイミングで、弊社にとって重要な要素をリスクベースで検討し、社内のルールの見直しを行っている。社内のAI利活用のリスク抽出や、AI利活用ポリシーの策定に利用した。
AIの開発/提供/利用にあたり関係する他事業者や他部署へ内容の連携を行った	<ul style="list-style-type: none">お客様のプロジェクトに応じたデータ品質管理の在り方の検討等昨年度AIのビジネス展開を検討する際に参照した。
社内や部署内のAIガバナンス教育資料として用いた	<ul style="list-style-type: none">社内勉強会や生成AI研修の教材にて、事業者ガイドラインの存在そのものを取り上げている。
AIの開発・利用に関する契約や、品質管理等で社外や部署外との取り決めの際に参考にした	<ul style="list-style-type: none">契約書審査や社内利用の際に指針としている。AI事業者ガイドラインを必要に応じて参考しつつ、AIガバナンス部門とAI活用推進部門とで定期的に連絡会を行っている。お客様のプロジェクトに応じたデータ品質管理の在り方の検討等

AI事業者ガイドラインのメリット

- ✓ 「AIガバナンスの土台となる概念を理解できた」「AIガバナンスにおいて考慮すべき点の不足に気づくことができた」「自社のAIガバナンスルールの策定を効率化できた」「国や団体のAIガバナンス施策動向を知る事ができた」といったルール策定・AIガバナンスの理解促進に関する回答が多い傾向にあった。

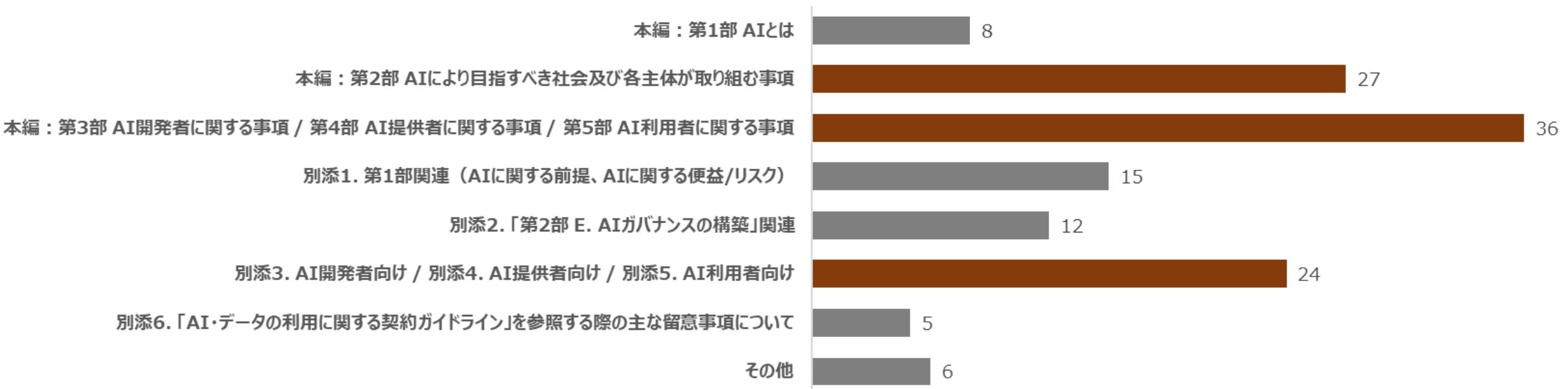
AI事業者ガイドラインのメリット



特に活用している/効果のあった章

- ✓ 「本編：第3部 AI開発者に関する事項 / 第4部 AI提供者に関する事項 / 第5部 AI利用者に関する事項」「本編：第2部 AIにより目指すべき社会及び各主体が取り組む事項」「別添3. AI開発者向け / 別添4. AI提供者向け / 別添5. AI利用者向け」を特に活用している/効果があったという回答が多い傾向にあった。

特に活用している/効果のあった章



2

重視するAIガバナンスの観点

特に重視されているAIガバナンスの観点

- ✓ 回答者の部署において、最も重視されているガバナンスの観点は「AIシステム・サービスに影響するセキュリティ対策」であり、次いで「偽情報等への対策」「AIシステム・サービス全般におけるプライバシーの保護」「教育・リスキリング」「適正利用」「適正学習」であった。

所属部署内のAIの開発/提供/利用において、特に重視しているガバナンスの観点【複数選択・最大5点】

特に重視されているガバナンスの観点	のべ回答数	特に重視されているガバナンスの観点	のべ回答数
[1-人間中心] ①人間の尊厳及び個人の自律 (人権尊重の観点から不適切な目的に利用していないか)	19	[3-公平性] ②人間の判断の介在 (本来必要な人間の判断を経ないことで、公平性を欠いていないか)	18
[1-人間中心] ②AIによる意思決定・感情の操作等への留意 (AIの利用が人間を不当に操作しないか)	8	[4-プライバシー保護] ①AIシステム・サービス全般におけるプライバシーの保護 (個人情報等が出力されないか)	48
[1-人間中心] ③偽情報等への対策 (偽情報等を提供しないか)	59	[5-セキュリティ確保] ①AIシステム・サービスに影響するセキュリティ対策 (機密性等が不十分ではないか)	67
[1-人間中心] ④多様性・包摂性の確保 (いわゆる「情報弱者」への配慮が不十分ではないか)	2	[5-セキュリティ確保] ②最新動向への留意 (最新の攻撃手法への対応が遅れていないか)	14
[1-人間中心] ⑤利用者支援 (サービス選択の判断の機会提供が不十分ではないか)	6	[6-透明性] ①検証可能性の確保 (AIの判断の検証のためのログ保存やステークホルダーへの情報提供等が不十分ではないか)	17
[1-人間中心] ⑥持続可能性の確保 (地球環境への配慮が不十分ではないか)	2	[7-アカウンタビリティ] ①「共通の指針」の対応状況の説明 (1~6の指針の対応状況について説明が不十分ではないか等)	6
[2-安全性] ①人間の生命・身体・財産、精神及び環境への配慮 (出力が状況により不正確にならないか等)	17	[8-教育・リテラシー] ①教育・リスキリング (AIに関するリテラシーの確保や教育の機会等が不十分ではないか)	35
[2-安全性] ②適正利用 (本来の目的を逸脱した利用等により、予期せぬ出力がされないか)	28	[9-公正競争確保] ①公正な競争環境の維持 (AIシステムに関する不当な独占状態等が発生していないか)	1
[2-安全性] ③適正学習 (不正確なデータまたは古いデータを学習していないか)	24	わからない (リスク分析ができるいない)	2
[3-公平性] ①AIモデルの各構成技術に含まれるバイアスへの配慮 (偏見や差別が出力されないか)	11	その他	10

昨年度との比較（特に重視されているAIガバナンスの観点）

所属部署内でのAIの開発/提供/利用において、特に重視しているガバナンスの観点【複数選択・最大5点】

昨年度（上位6項目）

特に重視されているガバナンスの観点	割合
[5-セキュリティ確保] ①AIシステム・サービスに影響するセキュリティ対策（機密性等が不十分ではないか）	18%
[4-プライバシー保護] ①AIシステム・サービス全般におけるプライバシーの保護（個人情報等が出力されないか）	14%
[1-人間中心] ③偽情報等への対策（偽情報等を提供しないか）	12%
[8-教育・リテラシー] ①教育・リスキリング（AIに関するリテラシーの確保や教育の機会等が不十分ではないか）	9%
[2-安全性] ③適正学習（不正確なデータまたは古いデータを学習していないか）	9%
[2-安全性] ②適正利用（本来の目的を逸脱した利用等により、予期せぬ出力がされないか）	8%
(上位6項目の合計)	(70%)

今年度（上位6項目）

特に重視されているガバナンスの観点	割合
[5-セキュリティ確保] ①AIシステム・サービスに影響するセキュリティ対策（機密性等が不十分ではないか）	17%
[1-人間中心] ③偽情報等への対策（偽情報等を提供しないか）	15%
[4-プライバシー保護] ①AIシステム・サービス全般におけるプライバシーの保護（個人情報等が出力されないか）	12%
[8-教育・リテラシー] ①教育・リスキリング（AIに関するリテラシーの確保や教育の機会等が不十分ではないか）	9%
[2-安全性] ②適正利用（本来の目的を逸脱した利用等により、予期せぬ出力がされないか）	7%
[2-安全性] ③適正学習（不正確なデータまたは古いデータを学習していないか）	6%
(上位6項目の合計)	(66%)

